

第132回評価専門調査会（R1.10.16）資料

研究開発評価の充実に向けた検討方針

◇目標

追跡調査及び評価の有効性の確認及びあるべきC S T I評価の検討

◇検討期間

来年夏頃までの約1年間

◇調査・検討項目

研究開発の効果・成果を、関連する政策・施策等に活かしていくためには、追跡調査・評価が重要なことから、今回、改めて、追跡調査・評価の実施の現状について把握し、その現状を踏まえつつ、実施手順等を検討し、各種調査・検討等を行い、追跡調査・評価の有効性を確認する。

- (1) 追跡調査・評価の実施の現状把握（各府省へのヒアリング等）
- (2) 追跡調査・評価の実実施手順等の検討
- (3) 国家的に重要な大規模研究開発終了案件に対する調査等の実施（実施手順等を適用した場合に想定される懸案事項等の解決に向けた調査、追跡調査・評価の簡易試行等）
- (4) 調査・検討結果の検証（追跡調査・評価の有効性の検証、実施する上での考慮点の検証）

また、現状の他省庁で実施している評価等の調査等を行いながら、現行法の範囲内での「あるべきC S T I評価」についても検討する。

◇検討体制

詳細な分析やより深い議論が必要なことから、ワーキンググループ(WG)で検討することとし、率直な議論を行う必要があることから非公開で実施する。

◇その他

追跡調査及び評価の有効性の確認の検討においては、「S I P第1期追跡調査の実施」及び「環境エネルギー分野の追跡調査・評価」と常に連携しながら検討する。

WG構成員（五十音順）

（評価専門調査会構成員）

上野 裕子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
主任研究員

上山 隆大 総合科学技術・イノベーション会議議員

岸本 喜久雄 東京工業大学 名誉教授
国立教育政策研究所 フェロー
（本WG座長）

原澤 英夫 前国立研究開発法人 国立環境研究所 理事

（外部有識者）

玉田 洋 東レ株式会社 技術センター企画室 主幹・担当部長

林 隆之 政策研究大学院大学 教授

WG検討経過

第1回 令和元年10月29日

第2回 令和元年12月6日

第3回 令和2年2月7日

第4回 令和2年3月17日

第5回 令和2年5月20日

第6回 令和2年7月3日

（上記以外に、複数回の書面審議を実施）